

真因問診AI 利用者向け仕様マニュアル

1. このアプリについて

真因問診AIは、現場の問題内容を入力し、特性要因図の初期案と追加問診を作成するためのアプリです。AIとの問診を通じて、真因候補を整理する補助として利用します。

2. できること

- 問題内容と現場情報を入力できます。
- 特性要因図の初期案を作成できます。
- 追加問診に回答しながら深掘りできます。
- reportを作成できます。
- 改善提案書AIへ渡すためのJSONをdownloadできます。

3. 利用前の準備

- 解決したい問題を具体的に整理してください。
- 発生場所、発生条件、頻度、対象製品、設備、作業条件などを可能な範囲で用意してください。
- AI分析を使うにはログインしてください。
- 個人情報や機密情報は入力しないでください。

4. 画面項目の説明

- 問題入力： 解決したい問題を入力します。
- 現場・業種の補足： 問題の背景や条件を入力します。
- 特性要因図： AIが作成した初期案を表示します。
- 追加問診： AIが次に確認したい質問を表示します。
- report： 問診内容を踏まえた整理結果を表示します。
- JSON download： 改善提案書AIに連携するためのデータを出力します。

5. 基本操作手順

- 1. 問題内容を入力します。
- 2. 必要に応じて現場情報を補足します。
- 3. 最初のAI分析を実行します。
- 4. 特性要因図の初期案を確認します。
- 5. 追加問診に回答します。
- 6. 必要に応じて問診を続けます。
- 7. reportを作成します。
- 8. 改善提案書AIへ進む場合はJSONをdownloadします。

6. 出力される内容

- 特性要因図の初期案
- 追加問診
- 真因候補
- report
- 改善提案書AI向けJSON

7. 無料利用回数の考え方

- 最初のAI分析が成功したときに1回として数えます。
- followup、report、JSON downloadは数えません。

- 残り0回の場合、最初のAI分析は停止されます。
- 残り0回でも、既に作成済みの内容に対するcount対象外操作は利用できます。

8. 入力・出力例

入力例：

- 問題：加工後のバリが多い
- 補足：マシニング加工、特定品番で発生、工具交換後も一部で再発

出力例：

- Man、Machine、Material、Methodの観点で整理した特性要因図
- 追加で確認すべき質問
- 真因候補と次に確認すべき内容

9. 注意事項

- AIの出力は真因を断定するものではありません。
- 現場確認、現物確認、記録確認が必要です。
- AIの提案は、調査の観点を広げる補助として利用してください。
- 安全、品質、法令に関わる判断は、責任者が確認してください。

10. よくあるエラーと対処

- 問題内容が不足しています：何が、どこで、どのように起きたかを入力してください。
- AI分析が停止しています：ログイン状態と無料利用回数を確認してください。
- AI設定が不足しています：管理者または運用担当者に確認してください。
- backendに接続できません：backendが起動しているか確認してください。
- 期待した内容と違います：入力条件を具体化して再度確認してください。

11. 個人情報・機密情報について

人名、顧客名、個別契約情報、非公開の不具合情報、秘密情報は入力しないでください。必要な場合は、匿名化、一般化、または社内で許可された範囲に変換してから入力してください。

12. 問い合わせ先

自社業務への導入や継続利用については、次のページからお問い合わせください。

<https://victorconsulting.jp/contact/>